



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

海に広がるプラスチックごみ問題

海のプラスチックごみを減らし、きれいな海と生き物を守る！【2019年5月14日】



ペットボトルなどの容器包装から家庭用品やオモチャまで、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。便利な一方で、ポイ捨てなど不適切に処分されたプラスチックごみが大量に海に流れ出て、海の環境を汚し、海の生き物にも悪影響を及ぼしています。このままだと、2050年には海のプラスチックごみは魚の量を上回ると予測されています。海のプラスチックごみを減らすために、私たち一人ひとりのプラスチックとの賢い付き合い方が問われています。

「捨てればごみ、分ければ資源」と言われますが、プラスチックも、きちんと分別すれば資源としてリサイクルすることができます。もっとプラスチックの 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進め、プラスチックを有効に、賢く利用することで、海のプラスチックごみも減らすことができるはずです。

プラスチックの 3R を進めるためには、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取組をしていくことが重要です。

ポイ捨てや屋外で放置されたプラスチックごみが散乱



雨や風によって、川へ流れて海へ



漂着したプラスチックごみで汚れた海岸

今やすっかりわたしたちの生活に必要な存在となったプラスチック。身の回りにはたくさんのプラスチック製品があふれています。同時に、皆さんのおうちのゴミ箱をちょっとのぞいてみましょう（教室のゴミ箱も見てみてください）。シンガポールでは、日本のように細かく分別してゴミを捨てることがないので、あまり普段は感じないのですが、改めて見てみると意外とプラスチックゴミが多いことに気づきます。きちんとリサイクルすることも、もちろん大切ですが、それ以上に心がけたいのは「ごみを減らすこと」。

以前バリ島を訪れた際に、レストランでこんなものを見つけました（右写真）。さらに、バリ島ではビニール袋も使われていませんでした。はじめは少し不便に感じましたが、慣れてしまえば大丈夫。小さな行動を積み重ねていきたいものですね。

（川口）

